

三河本苑 2023  
 みんな集まれ  
 三河っ子



親子で参加  
 家族で参加



# 少年冬季学級 ★★★★★ ご案内 ★★★★★

内容：クリスマスも近い為、親子で出来る「クリスマスリース作り」や「凧揚げ作り」を親子で協力して楽しんで頂きます。夏季学級で行なった、ぼたえもん童話や日本伝統を取り入れたこともやっていきます。昼食は、クリスマスチキンを作ったりして楽しんで頂きたいと思いますので、是非参加をお願い致します。

【日時】 **12月10日(日)** AM 9時30分受付  
 AM10時～PM3時  
 くらいまで  
 【場所】 **大本三河本苑**  
 【参加費】 **無料**

◆申し込み先/三河本苑事務局 TEL 0533-69-7518

◆申し込み締切り/11月19日(日)

三河本苑11月月次祭までに本苑事務局へ



# 三河本苑だより

11月号

2023・11 No.498

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL 0533-69-7518

FAX 0533-69-1455

9月24日に本苑にて、参加者21名で開催いたしました。お礼拝から始まり、本苑長あいさつを経て、前田特派の講話と移りました。講話は「宣使・信徒の心得」。大本は他人の幸せを祈らせていた



前田特派による講義



み手代お取り次ぎの実践



芝田特任



三矢特任

命をばたしましう。徒として積極的に使



参加者記念写真

行いました。昼からは、芝田特任、三矢特任からの「み手代お取次ぎ」「ご祈

お取次ぎの実践練習を

## 宣使研修会報告

特任宣使 三矢 直

- 11月の行事
- 10日(日)
- 少年冬季学級
- 17日(日)
- 本苑十二月月次祭 全体会議
- 24日(日)
- 誠心会万祥殿献勞

## 十一月添釜 口切りの茶会

茶人の正月を迎え壺荘りにて、一服を差し上げます。

茶道部/直心会第二ブロック

# 全国一斉世界 平和祈願 実施報告

青松会長 三矢直彦  
去る9月11日(月)

に三河本苑の皆様には、各機関をはじめ信徒宅にて「全国一斉世界平和祈願」の実施をして頂き、ありがとうございました。

【結果報告】  
○参拝箇所／三河本苑・分所支部・個人宅：計71箇所  
○参拝者数：155名

## 年末の万祥殿献勞奉仕のお願い

誠心会長 三浦 浩

三河本苑の皆様、日々のご神業奉仕ご苦勞様です。

さて、恒例の誠心会行事であります。聖地天恩郷万祥殿での献勞清掃奉仕を左記

の予定で行います。年末の忙しい時節ではありますが、万祥殿での献勞奉仕で清々しいお正月を迎えられますように、大勢の皆様のご奉仕をお願いします。

### 【開催日】

12月24日(日)  
10時～15時

(9時半頃までに万祥殿能舞台裏廊下集合)

【交通手段】  
各自、自家用車など

# 私の 思い

梅園支部 高井 郁代

## 私と信仰

38年前に高井家に嫁ぎました。婚約時代に亡き義父の一年祭があり、その時が大本との出会いでした。私の実家の祖父の姉の家は天理教をお祀りしており、その関係で夏休みなど遊びに行くに祭典をしているのを目にした事がありましたので、驚く事なく受け入れることができました。

結婚してから、家の月次祭や本部の参拝など、行ける時は義母と一緒に行ってました。そして二男が生まれた頃、長男と三人一緒に入信しました。神道であれ仏教であれ、その家に嫁いだのだからその家の信仰に進むのが自然の流れだと思いました。

亡き義母は、私に無理に色々な事をさせる人ではありませんでした。自分の行いで、信仰というものを教えてくれていたのだと思います。義母が亡くなってからが、私の本当の信仰の始まりだったように思います。

大本との出会いのおかげで、お琴、短歌、冠沓句、祭式、茶道などに興味が湧いたりお誘いを受けたりして、沢山の事を学ばせていただいています。また大祭、夏季学級、冬季学級、餅つきなど色々な経験もしました。とても有り難いことです。今は、自分のできることを頑張り、少しでもお役に立てればよいなと思っています。

# 遺稿「み手代お取次ぎ」と「祈願」のご神徳

## ③ 私の「み手代お取次ぎ」の始まり 「脾臓がんのご婦人」

特任宣伝使 松永孝司

私は50歳の時にみ手代をご下付していただきました。その際、「宣伝使の研修会」に参加し、初めて「お取次ぎ」の研修を受けました。午後に出口直日大本三代教主さまから、み手代をご下付していただいた際、この質素なもので病気を治すことができるのだろうか、と不謹慎な思いが湧いてきました。

一週間ほど経ったある日、神さまから試験を与えられることになりました。突然、妻が「友人が脾臓がんで入院しているの、今から総合病院に行ってお取次ぎをしてほしい」と言ってきました。私は「宣伝使研修会」の際に一度だけ「お取次ぎ」の体験をしただけで自信がなかったため、嫌だと断りました。しかし、妻は怒り出して「あなたは宣伝使でしょう」と非常に厳しい口調で言い続け、収まる様子はありませんでした。根負けして、仕方なく出かけることになりました。それが私の「お取次ぎ」の初めての経験となりました。

病室には二つのベッドが並べられており、片方のベッドには手足を縛られ、口に猿ぐつわをはめられた瘦せた女性が苦しみに七転八倒していました。ご家族に事情をお聞きすると、彼女は末期の脾臓がんで麻酔が効かないとのことでした。私はこの状況から、完治は困難だと悟りました。

そこで、「痛みが和らぎ、安らかに天国に召されますように」と祈願し、一生懸命に「お取次ぎ」を始めました。すると、彼女の唸り声が次第に静かになり、彼女は私の方を見つめて懇願しているようでした。

その後、唸り声もなく静かになり、私はご婦人がこのままお亡くなりになるのではないかと心配になってきました。お取次ぎの途中でお亡くなりになった場合、どうしようかと考えながら一回目を終えました。しかし、よく見ると彼女はすやすやと寝ており、安心して二回目を行いました。その間、彼女は安らかに眠っておられました。

私は家族の方に苦しまれた場合はすぐに来るようにとお願ひし、帰宅しました。その後、何の連絡もなく心配していたところ、一週間後にお亡くなりになったことを知りました。

ご家族のお話によると、その後の一週間は意識も戻り、苦しむことなく穏やかに過ごされていたそうです。病状が良くなったため、付き添いの家族は一時帰宅し食事をすることになりましたが、食事を皆で食べようとしたり矢先に病院から急な連絡があり、駆けつけるとご婦人は安らかに息を引き取られていたとのことでした。私はなぜあの時、「病気が完治するように」と祈願しなかったのか後悔しました。ご葬儀の際、喪主は挨拶の中で、ご病気の経過や故人の状況などについて話され、私の変わった歌によって意識が回復し、穏やかな日々を過ごされたことを報告されました。その結果、「お取次ぎ」の依頼が増えるようになりました。

この出来事は私にとって初めての「お取次ぎ」の経験となり、また、私が「み手代」をご下付いただいた際の不謹慎な思いを正すために、神さまから与えられた試験だったのだと気づきました。